

言語活動の充実を図る手立ての工夫

－ 新聞記事を活用した取組をとおして －

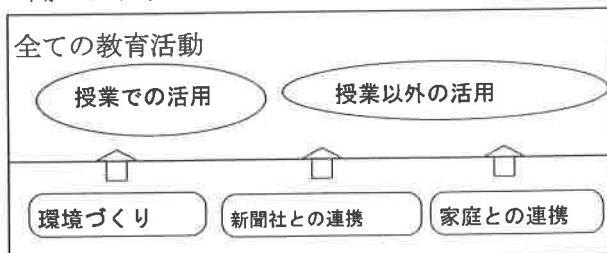
日向市立大王谷小学校
主幹教諭 栗 栖 健 治

I はじめに

言語活動の充実を図る手立ての一つとして新聞記事の活用に取り組んできた。実践指定校2年目の取組を報告したい。

平成23年度は、5年生を中心に取り組み、平成24年度は、5、6年生に広めて取り組んだ。また、2学期からは、学校の予算で4年生に小学生新聞を届けるようにした。

本校では、新聞記事の活用を次のように整理し、取り組んできた。授業での活用はもちろん、授業以外での活用も含め、様々な教育活動の中で新聞記事の活用を工夫してきた。それらの活動を支えるものとして、新聞記事を活用した教育活動を支える「環境づくり」（例えば、いつでも新聞を読むことができるように、写真1のように図書室に「今日の新聞」コーナーを設置した）、充実させるための「新聞社との連携」（新聞社の出前授業など）、「家庭との連携」（夏休みの課題、新聞スクラップノートなど）を進めてきた。



【写真1、図書室の「今日の新聞」コーナー】

II 新聞記事を活用した実践

- 1 社会的事象への関心を高めるために
 - 第5学年社会科の学習
- 2 読解力、文章表現力を身に付けるために
 - Happy News プロジェクト
 - 新聞記事の視写
- 3 家庭での学習を充実させるために
 - 家庭との連携
- 4 新聞配付の工夫

III 具体的な実践

1 社会的事象への関心を高めるために

社会的事象への関心を高めるために、授業での新聞記事活用の方法を次のように考え、取り組んだ。

【新聞記事活用の方法】

- (1) 新聞記事全文（一部）を読み、自分の考えをまとめさせる。
- (2) 新聞記事の一部（グラフ、図、写真など）を使って説明する。
- (3) 学習内容と関連のある新聞記事を紹介する。
- (4) 学習新聞をつくる。

(1) 第5学年社会科の学習

ここでは、新聞記事活用の方法(1)の実践を紹介する。

① 実践1

ア 単元

わたしたちの生活と工業生産

イ 本時の目標

日本の工業と貿易について振り返り、関心のある資料を基に自分の考えをまとめることができる。

ウ 主な学習活動 (2時間扱い)

時	主な学習活動
第1時	1 これまでの学習を振り返る。 ・ 自動車工業, 物流, 貿易等 2 4つの新聞記事の説明を聞く。 ・ 環境に優しい自動車, 人に優しい自動車, TPPはなぜ大問題に, TPP賛否 3 新聞記事を1つ選び, 読む。 ・ 難しいことばについて説明を聞く。 ・ 関心のある記事を選ばせる。 ・ 分かったこと等に朱線をひく。
第2時	1 選んだ記事の確認をする。 2 これまでの学習と関連させながら, 新聞記事をもとに自分の意見を書く。 「こうなるといいな」「反対」「賛成」等の視点を提示 3 友だちの意見を聞く。 ・ 同じ新聞記事を選んだ児童で意見を交換する。 4 友だちの意見を聞いた後の自分の意見を書く。 5 発表する。 6 学習を振り返る。

エ 児童の反応

意見交換後の児童の意見を見ると, 環境に優しい自動車については, 「ハイブリッド車はいいことばかりだと思っていたけど, 友だちの『値段が高くて買えない人は困ることもある』という意見を聞いて, そうかもしれないなと思った」と, 新たな気づきがあったという感想をまとめていた。

TPP問題については, 「TPP参加は日本にとって都合が悪いと思っていたけど, 利益につながることもあるんだな」と, これまで気付かなかった意見にふれることができた児童もいた。

意見交換をすることで, 気付かなかったことに気付く姿が多く見られた。同じ新聞記事でも自分と違う意見があることを知り, 考えを深めさせることができた。

本実践の成果と課題は, 次のとおりである。

(以下, ○～成果, ●～課題)

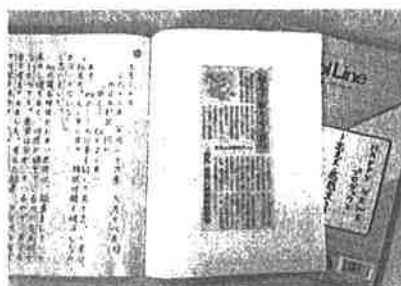
- 教科書に新聞記事をプラスすることで, さらに豊かで鮮度の高い情報を加えることができた。
- 学習してきた内容について理解を深めさせることができた。
- 自由な貿易に関する内容は, 小学生新聞の記事が分かりやすく有効であった。
- 新聞記事の内容について十分に理解させるための時間の確保と手立ての工夫が必要である。

2 読解力, 文章表現力を身に付けるために

(1) Happy News プロジェクト

- ① 実践1 (第6学年, 授業以外の活用)
読解力, 文章表現力を身に付けるために, 6年生のあるクラスでは, 「Happy News プロジェクト」と題し, 週1回提出する新聞スクラップノートに取り組んできた。

この実践は, 児童が「うれしいな」「楽しいな」と感じた新聞記事を選び, 記事に対する自分の感想などを書き, 担任がコメント書くという取組である。



【写真2 新聞スクラップノート】

本実践の成果と課題は, 次のとおりである。

- これまでより自分の意見, 感想を書く力が付いてきた。
- 新聞記事の内容を話題にする児童が増えた。
- 新聞を取っていない家庭もあるが, 教室に届く新聞で対応することができた。
- スポーツ分野などに偏った記事ばかり

りを選んでいる児童が数名いたので、いろいろな分野に関心をもつような手立てが必要である。

② 実践2 (第6学年, 国語科での活用)

ア 単元

「持続可能な社会」への取組について調べよう

イ 主な単元の目標

目的に応じた方法で調べたり情報を活用したりする力を身に付ける。

実践では、児童のそれぞれの課題に応じた資料や情報を見つけ、調べ、リーフレットにまとめた。その際、複数の資料や情報として新聞記事を積極的に活用した。これまで「Happy News プロジェクト」に取り組んできたことが、この学習において、以下のような成果につながったと考える。

- スクラップノートには自分の意見を必ず書くので、単元最後の「リーフレット作り」では、調べたことをまとめるだけではなく、自分の意見がたくさん書かれていた。
- 新聞記事を活用することで、図書とは違った地域に関する情報や新しい情報をたくさん得ることができた。

(2) 新聞記事の視写

① 実践1 (第5学年, 授業以外の活用)

読解力, 文章表現力を身に付けるために、5年生のある学級では、ステップアップタイム(本校では、「ステップアップタイム」とよび、基礎的・基本的な内容の指導の時間を10分程度設定している)に新聞記事の視写に取り組んだ。この実践では、特に、正しい文章の書き方、書く速さ、集中力を身に付けさせることをねらい、次のようなワークシートを作成した。

新聞記事は、事前に教師が選び、難しい言葉については簡単な説明を「言葉の意味」として記載した。

本実践の成果と課題は、次のとおりである。

- 新聞記事を読むことで様々な情報を知りきっかけになった。
- 継続して取り組むことで、書くことに集中できるようになった。
- 社会的事象に関心をもたせる内容を選ぶ等、どのような視点で記事を選ぶのかを明確にして取り組む必要がある。

【ワークシート】

<p>〇〇新聞〇年〇月〇日</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 80%; margin: 5px auto;"> <p>新聞記事</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 5px auto;"> <p>言葉の意味</p> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">ここを書こう！</p>	<p style="text-align: center;">視写スペース (原稿用紙・縦書き)</p>
---	--

3 家庭との連携

(1) 長期休業中の課題

① 実践1 (第5, 6学年)

夏季・冬季休業中の課題として、社会的事象に関心をもたせ、家族と一緒に新聞記事を読み、話し合う場をつくること(ファミリーフォーカス)を意図して取り組んだ。夏季休業中の課題は、「第3回いっしょに読もう!新聞コンクール」(日本新聞協会主催)に作品を応募した。課題に取り組ませるにあたって、事前に社会科の学習で以下のように指導を行った。

【事前指導の流れ】

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 7月 | 1 進め方について説明する。 |
| ・ | 2 社会科の学習で、課題と同じ要領で取り組ませる。 |
| 社会科授業 | ① 記事を選んだ理由を書く。 |
| | ② 自分の考えを書く。 |
| | ③ 家族や友だちの意見を書く。 |
| | ④ 家族などの意見を聞いた後の自分の意見や提案を書く。 |

7・8月 夏季休業 家庭での取組

新聞を取っていない家庭もあるので、以下の配慮事項について学年会で確認し、取り組んだ。

【配慮事項】

- 保護者への協力依頼
- 親戚や祖父母宅等にある新聞の活用
- 担任が登校日に新聞を準備
- コンビニ、駅売り等、1日分だけ新聞を購入

児童の取組を見ると、夏のオリンピック、スポーツに関する記事を選んだ児童が多かった。保護者との話し合いの後の意見では、「私はやる前からあきらめていたが、あきらめずに最後までやりとげることの大切さを学んだ」「努力はきっとむくわれる」などそれぞれの考えをまとめることができた。また、印象に残った「多くの人に支えてもらった」という記事の内容について、この意味を家族で話し合っ理解できたという児童もいた。

いじめに関する記事を選んだ児童は、「いじめの側に責任がある」「学校、学年全体で対処していかなければいけないという父の意見に賛成です」など、自分の考えをしっかりと持ち、保護者の意見と自分の考えを比較しながら表現することができた。

応募した「いっしょに読もう！新聞コンクール」では、平成23年度、本校の積極的な取組が評価され、「学校賞」（県内初）を受賞した。平成24年度は、6年生が1名「奨励賞」（小学生は県内で一人）を受賞した。

4 新聞配付の工夫

NIE実践校には数紙の新聞の提供がある。毎日の新聞が教室に届く制度はすばらしい環境であった。今年度、新聞の提供を受けることができる6紙の中から月毎に3紙を選び、5・6年生の各学級に以下のとおり配付した。

選んだ3紙	A, B, C
学校が契約している2紙	D, E

【資料2 新聞配付の仕方】

年 曜	5年			6年		
	1組	2組	3組	1組	2組	3組
月	日曜 A B	日曜 C D	月曜 A B	土曜 A B	土曜 C D	月曜 C D
火	A	B	C	D	E	
水	D	E		A	B	C
木		A	B	C	D	E
金	C	D	E		A	B

NIE実践校へ提供していただいている新聞の他にも学校が契約している新聞も含めて、4年生には小学生新聞を、5・6年生には表のように各学級に配付してきた。また、祝日、土曜日、日曜日の新聞は、月曜日に比較して読むことができるよう、数紙を1学級に配付するなどの工夫も行ってきた。

IV おわりに

NIE実践校1年目は5年生を中心に、2年目は4・5・6年生と新聞記事を活用する学年を広げることができた。新聞記事を活用することで言語活動の充実を図り学習のねらいに迫ることができた。新聞などの資料を基に自分の考えを文章で表現することが苦手だった児童が、自分の意見を持ち、表現する姿は大きな成長を感じた。

新聞記事を活用することはあくまでも目的を達成させるための手立ての一つである。今後何のためにこの新聞記事を使うのかを明確にして授業づくりを進めたい。

2年間のNIE実践校の指定をいただき大変感謝している。心よりお礼申し上げ、報告としたい。

《参考文献等》

- 東京書籍株式会社 新しい国語六上・下 2011.2.10
- 東京書籍株式会社 新しい社会5上・下 2011.2.10
- 福井新聞社 教職員のためのガイドブック 2012.7
- 文部科学省 学習指導要領 2008.3
- 文部科学省 学習指導要領解説国語、社会 2008.8